

1 本年度の重点教育目標

よさを認め合いながら しっかり学ぶ北美原の子
～合言葉～ かがやきいっぱい 元気いっぱい やさしさいっぱい

2 本年度の取組の重点

- ①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- ②北美原カリキュラムの実践（がっちり じっくり しっかりステージ）
- ③単元内自由進度学習の推進（マイプラン学習・マイ時間割）
- ④道徳教育の推進
- ⑤特別支援教育の推進（個に応じた指導・サポートの充実）
- ⑥デジタル・シティズンシップ教育への意識転換

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	○主体的・自律的に学びに向かう児童の育成。	a	「身に付けておかなければならない力」を具体的にリストアップして、1年生からスモールステップで提示し取り組んでいく。	A	A	
②北美原カリキュラムの実践	○がっちりステージからじっくりステージへの取組	a	進捗確認の場を定期的に設け、各ステージのねらいや目標を日常の指導で常に意識・共有できる体制を構築していく。	A	A	
③単元内自由進度学習の推進	○単元内自由進度学習の推進（マイプラン学習・マイ時間割）	b	先進校の事例や映像から具体的なイメージを確立し、小規模な実践から段階的に進めていく。	B	A	マイプラン学習は取組等を制度も含めて学校だよりで周知してほしい。
④道徳教育の推進	○「心地よいコミュニケーション」の推進	a	道徳推進教師との連携による指導法の共有や対話の場を設け、共通理解のもと組織的に道徳教育を深化させる。	A	A	
	○「あいさつ」の推進	b	具体的な動作（目を見る等）を明示したり掲示も改善したりして、全校で「自分から」取り組む主体性と気運を育む。	A	A	
⑤特別支援教育の推進（個に応じた指導・サポートの充実）	○児童の行動や様子を見取り、困難さについて仮説を立て、指導や支援を工夫する。	a	支援員の最適配置や校内チーム体制の構築により組織的支援を工夫していく。	A	A	
	○指導や支援の内容や方法について、児童の反応や変容に応じて修正を重ね、改善する	a	サポートシート（個別の指導計画）を作成して活用し、支援を実行した後は、その効果があったかどうかを再度見取り、評価していく。	A	A	
⑥デジタル・シティズンシップ教育への意識転換	○情報モラル教育（規制・制限・禁止）からの脱却	b	年間計画を作成して全校共通の指導指針を構築・共有していき、失敗を学びの機会と捉えて、禁止から「善き活用」への意識転換を図っていく。	B	B	各家庭にも周知し、学校だけではなく家庭と一体となって取り組むべきである。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

